



## 第2回 瀬戸内に眠る熊本の古代人

現在、全国的な注目を集めている馬門石。宇土を舞台にした日本古代史上の謎に皆さんも挑んでみませんか。

### 造山古墳と千足古墳

日本で4番目に大きい古墳が岡山市にあります。その名は造山古墳。全長約350m、高さ約31mの前方後円墳で、古代吉備（現在の岡山県から広島県東部）に勢力を置き、一時はヤマト政権の大王（後の天皇）を凌ぐほどの勢いが

あった大豪族・吉備氏の墓です。山塊と形容すべきその姿は、吉備氏絶頂期の巨大モニュメントとして1500年経た現在も威容を誇っています。

### 被葬者は宇土の古代人？

遺体が納められた千足古墳の石室は、四壁に沿って「石障」と呼ばれる板石を立て並べた構造で、肥後（熊本県）に分布が集中する特異な

可能性が高いといえます。造山古墳の墳丘上に灰黒色の馬門石石棺があることも、両地域の密接な繋がりを想起させます。



千足古墳の石室

古墳の周囲を見渡すと、「陪冢」と呼ばれる近親者な いし生前関係のあった人が埋

ものです。ヤンボシ塚古墳（上野田町）も同じ種類の石室で、両者は大変よく似ています。驚くべきことに、この石障

# 大王のひつぎを運ぶ実験航海

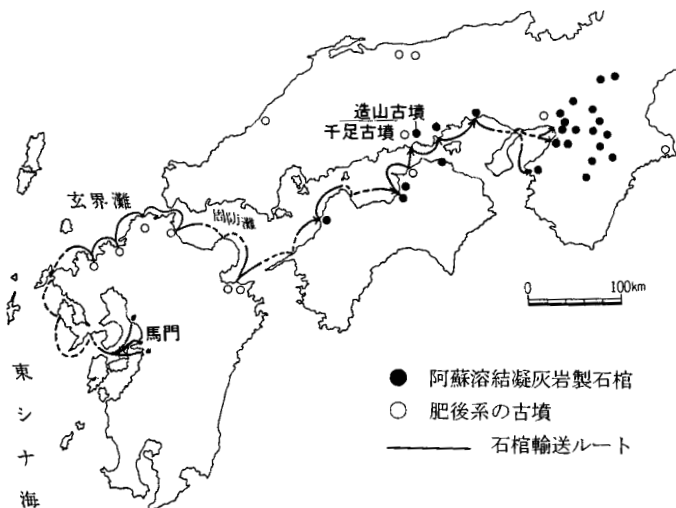
### 瀬戸内沿岸に分布する肥後系古墳の謎

瀬戸内海沿岸には、千足古墳以外にも肥後の特徴がある古墳が点在しています。これらの古墳の存在は、両地域の豪族達の間

に活発な交流、具体的には同盟や婚姻関係があったことを如実に示しています。

次回の5月1日号は「継体大王と推古女帝」。

どのような経緯で馬門石石棺が「大王のひつぎ」として採用されたのか、この謎について考えてみたいと思います。



▲阿蘇石製石棺と肥後系古墳の分布  
(宇土市教委：高木恭二氏作図を一部改変)

葬された古墳が6つあり、そのうちのひとつに千足古墳と呼ばれる全長74mの前方後円墳がありま

す。実はこの古墳、宇土にゆかりがあった人物の墓かもしれないのです。被葬者は宇土の古代人？

おそらく埋葬された人物は、吉備氏を支えた有力者で、宇土の出身者もしくは宇土と何らかの関係があった古代人の

石棺の輸送を例にすると、古代は夜間航行の技術が確立されておらず、また物資の確保のため毎日どこかの港に停泊する必要が